

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	ふたばまちえきにしちくさいがいこうえいじゅうたくとうせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	双葉町駅西地区災害公営住宅等整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和元年 11 月 19 日 ～ 令和6年5月7日
3. 事業費(工事費)	5,533 百万円
4. キーワード	復興・再生、コミュニティ形成、施工の合理化・効率化
5. 事業概要	
本事業は、福島県双葉町の帰還困難区域のうち、避難指示を解除して居住を可能とする区域として定められた特定復興再生拠点区域内において、県内外の避難先から双葉町へ帰る町民や新たに町へ移住される方々が安心して暮らすことができ、さらには新しいコミュニティの形成を促す持続可能なまちづくりをコンセプトとして、県内で初めて、帰還者向けの災害公営住宅と新規転入者向けの福島再生賃貸住宅を計 86 戸整備したものである。	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b) 既往技術の創意工夫、活用 () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(e) 良好な景観形成の実現 (f) 地域の活性化 (k) 施工の合理化・効率化 ()	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
本事業は、帰還町民と移住者によるコミュニティの復興再生が最も重要なテーマとなった。 このため、各住棟間の通路に面して、入居者が思い思いに活用できる土間空間を対面に置き、会話を効果的に誘導する仕掛けとし、さらに、人々が交流できる場として、集会所のほか多目的に利用できる軒下空間を分散して8箇所設け、住宅は帰還者向けと新規転入者向けを混在して配置した。 これらの創意工夫により入居者のみならず、様々な立場の方々の交流が生まれ、着実に町に賑わいが戻りつつある。

8. 事業を代表する写真及びキャプション

双葉町が別途発注した基盤整備工事と同時並行で進めたため、宅地造成が完了したエリアから段階的に住宅を整備する手法とした。

敷地を第1期から第5期の工区に分け、第1期は令和4年8月の避難指示区域の解除直後である同年10月に入居を開始した。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

○ 背景

双葉町は、東日本大震災と原子力災害による複合災害によって、全域が避難指示区域となり、全ての町民が町外での避難生活を余儀なくされた。

避難の長期化・広域化により、これまで築き上げてきた地域のコミュニティが崩れ、町民同士の交流が希薄になるなど、町の復興再生とともに町民の帰還促進が大きな課題となっており、帰還後においては、人々が集まり、交流が生まれ、つながりを持ってお互いが支えあえる新しいコミュニティの構築が不可欠であった。

さらに、復興再生には、帰還する町民はもとより、新しく町へ移住される方々の住まいを確保し、高齢者から次世代を担う若い世代まで、誰もが心身ともに健康で安心して暮らすことができる居住環境を整える必要があった。

このような中、福島県では、双葉町から復興に資する新たな町営住宅の代行整備の要請を受け、双葉駅西地区に帰還者向けの災害公営住宅及び新規転入者向けの福島再生賃貸住宅を整備することとなった。

○ 事業概要

建設戸数	災害公営住宅(30戸)、福島再生賃貸住宅(56戸)
建設地	福島県双葉郡双葉町大字長塚字町西 地内
規模構造	戸建住宅 木造平屋建て(1LDK 18戸、2LDK 12戸) 集合住宅(長屋) 木造2階建て(1DK 12戸、3DK 44戸)
建築面積	6,987.15㎡
延べ面積	7,747.41㎡

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元（位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等）〕



①－(b)－(e)、(f) 良好な景観形成、地域コミュニティの活性化

双葉駅西地区は駅に隣接しており、地区内には駅前広場や診療所（町が別途発注）が整備され、今後、駅前広場付近には福祉交流施設や分譲地が計画されていることから、入居者はもとより、町を訪れる方の通り道・交差点となることを想定し、利便性とコミュニティの形成を考慮した計画とした。

整備に当たっては、双葉町の緑豊かな原風景の中に佇む住宅群として周辺の景観に配慮した建築デザインとし、帰還される町民と新たな住民が垣根なく触れ合い、多様性を生かしながら共に育んでいける魅力ある住環境の創出を目指した。

各住棟の間からは周囲の山々が望まれ、緑が映えるよう外壁色は黒系を採用した色彩計画とした。住宅の配置については、駅前広場から放射状に広がるようにすることで、空間的な広がりを持たせ、画一的・無機質とならない変化に富んだ住宅群を形成している。団地内には電線の地中化と併せて、多様な植栽を配置することで、周辺環境と調和した美しい景観を創出している。

新たなコミュニティの形成・活性化の仕掛けとして、入居者はもちろん、この地区を訪れる様々な方との交流が生まれるように、多目的に使える軒下空間を各所に整備した。この場所は、大屋根による半屋外空間であり、夏祭りや芋煮会のイベントにも利用されている。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

また、歩行者用通路に面して、各住戸のDIYや趣味のスペースとして活用できる土間空間を設け、公共空間へ個人の多彩な活動がにじみ出る仕掛けをすることにより、住民間の交流に繋がるなどコミュニティ形成が促されている。

さらに、県内の建築系工業高校生が福島県木材協同組合連合会の協力を得ながら、入居者等の集会やイベントのために制作した大きなテーブルを集会所に設置し、コミュニティ形成の支援に寄与する取組も行った。



① ー(b)ー(k) 基盤整備工事との綿密な現場調整による施工の効率化

令和4年8月の避難指示区域解除後、速やかに入居が開始できるよう住環境を整備する必要があったことから、別途町が発注した基盤整備工事と同時並行で整備を進めた。

敷地を第1期から第5期の工区に分けたことにより、造成工事が終わった箇所から早期に建築工事に着手することができたが、道路整備工事や上下水道工事の基盤整備工事と同時並行とならざるを得ず、仮設計画の策定等に非常に苦慮する状況にあった。そこで、宅地造成や道路などの基盤整備の事業者やインフラ設備の事業者などの関係者と定期的な連絡調整会議を行い、施工エリアへの進入経路や作業ヤードの確保、施工時期を綿密に調整することで施工の効率化を図り、避難指示区域解除のタイミングに合わせて完成することができた。

なお、双葉駅西地区では、団地西側では分譲地の整備が進められており、今後は福祉交流施設が計画されている。震災前からの町民だけでなく、新たに移住し、町民となった方々を交えながら、更なる復興と再生に向け、町全体が丸となって新たな一歩を踏み出している。

